令和7年度　京都府農地中間管理事業　評価調書

令和8年3月10日（評価委員会）

評価項目	評価	コ メ ン ト
1　相対からの円滑な移行 (1)市町村と連携した事業推進の取り組み状況は如何。	(A) B C	
(2)委託業務をスムーズに進めるための各種会議等の開催状況は如何。	A (B) C	委託業務をスムーズに進めるための会議等の開催回数は半減しているが、合理的な事情により春会議を次年度夏に伸ばしたものであり、目標は概ね達成してるものと評価する。 一方、市町村では、事務手間が比較的少ない地代無償の手続きを勧めがちになるとの話もある。市町村でもしっかりと体制をとれるよう、委託費の増、手続きの簡素化など様々な配慮、取組みをお願いしたい。
(3)現地推進役等による農業者等への理解促進活動は如何。	(A) B C	目標を大きく超える理解促進活動が実施されており、高く評価できる。 今後も、こうした延べ1000回を超える理解促進活動を積極的に続けられ、農地の集積集約のための情報収集活動としても活用願いたい。 また、土地持ち非農家など普段アクセスしない方への農地中間管理事業への理解促進についても検討願いたい。
2　広域利用調整を支援 (1)広域利用調整に向けたマッチング活動は如何。	A B (C)	市町村域を超える広域利用調整は、農地の利活用の大きな成果が期待できる取組みであるが、その分非常に困難な取組みでもあることも理解できる。今回マッチングが1件にとどまっており、目標通りできていないと言わざるを得ないが、その取組みを進めようとしていることは大きく評価できる。
(2)新規参入法人等への訪問状況は如何。	A (B) C	新規参入法人等の探索にあたっては、経営状況、営農評価などの信用度が把握されている府内農業法人もアンケートなどにより意向をしっかりと把握いただき、優先的にマッチングなどの取組みを進めていただきたい。 更に「受入側の情報についての収集が容易ではない」を課題としているが、集落営農の持続や、古いほ場整備田など課題を持った地域への積極的な情報取りや、マッチングや基盤整備など地域に農地の利活用の可能性を提案するなど、掘り起こしも考えていただきたい。
3　機構関連農地整備事業等の円滑実施 (1)機構関連事業の地域合意等に向け、関係機関による事業実施推進チームの結成、設置状況は如何。	A (B) C	
(2)事業実施推進チームの課題解決に向けた協議･調整状況は如何。	(A) B C	推進チームによる協議・調整が目標の20回を超える、延べ34回実施したことは評価できる。 府南部の未整備田などへのアプローチが多いと見受けられるが、府中北部の旧区画や経年劣化したほ場整備田などでも可能性があるため、こうした地域への提案活動も検討もお願いしたい。
総合評価	(A) B C	農地中間管理事業により農地の利活用を進めるため、創意工夫いただきながら様々な取組みを進めていること、特に広域利用調整といった府内全域を把握する農業会議ならではの取組みであり、大いに評価できる。 今後、地域計画のブラッシュアップや実現を図っていくためには、更に集積とともに集約を進め、広域利用調整の受皿となる農地の掘り起こしなど、効果的な利活用に繋げる工夫が不可欠である。 例えば、農家負担が軽減されたほ場整備事業を積極的に活用することは、まとまった地域全体で集積集約を進める効果的な手法であることから、関係機関と連携協働し集積集約による農地づくりの可能性を地域に提案するなど、農地の効果的な利活用に繋げていただきたい。

A:目標を達成している　　B:目標を概ね達成している　　C:目標どおり出来ていない